氏　　名	生　田　陽　彦
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第　4082　号
学位授与の日付	平成１７年１２月３１日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	頚椎椎間板の変性と軟骨終板の軟骨細胞のapoptosis との関係
論文審査委員	教授　木股　敬裕　教授　滝川　正春　助教授　西田圭一郎

学位論文内容の要旨

目的：人の頚椎椎間板と軟骨終板の細胞の TUNEL 陽性細胞の割合を調べて組織学的に椎間板変性と apoptosis の関係を考察した.

対象および方法：系統解剖用遺体１１例の頚椎３９椎間板の正中矢状断の組織を対象とした．方法は免疫組織学的に apoptosis をおこした細胞の割合を TUNEL 法を用いて計測し，椎間板ヘルニアや軟骨終板の厚さとの関係を調査した.

結果：ヘルニアの存在した椎間板はヘルニア側の軟骨終板に軟骨細胞の TUNEL 陽性細胞が多く認められた．TUNEL 陽性の軟骨細胞の分布は３つのタイプに分類できた．タイプ１は前部、後部に多くて中部に少ないもの，タイプ２は下位に多くて上位に少ないもの，タイプ３は上位下位とも前部,中部,後部同程度に認められるものであった．軟骨終板の厚さと TUNEL 陽性細胞の割合の間に相関関係はなかった.

論文審査結果の要旨

変形性頚椎症における頚椎椎間板の変性と apoptosis との関係を明らかにするのが本研究の目的である。現在まで、マウスなどを利用した実験報告は散見されるが、人ー頚椎椎間板における apoptosis の報告はない。

系統解剖用遺体から得られた 39 椎間板における軟骨終板の apoptosis の状態を Tunel 法で調査した。椎間板ヘルニア(＋)群における apoptosis の率が局在的に有意に上昇しており、その関連性が認められた。一方、ヘルニア（－）群では、apoptosis は認められるものの、変性との関連性は認められなかった

本実験では、軟骨終板の apoptosis と椎間板変性との病態解明において課題を残している。しかし、人ー頚椎軟骨終板において、初めて apoptosis の存在を明らかにしたこと。そして今後の更なる病態解明に向けた研究が期待されることから、価値ある業績であると考える。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格が有ると認める。